

1. 遺跡名 社家宇治山遺跡
(しゃけうじやま)
2. 所在地 海老名市社家
3. 時代 弥生時代後期～中近世
4. 調査概要

方形周溝墓は、調査範囲全体で 30 基、Gランプの調査区盛土部では比較的大型の方形周溝墓 12 基が隣接して発見されました。

方形周溝墓の周溝から出土した壺形土器は、古墳時代前期の3世紀～4世紀のものだと推定され、古墳時代前期の大規模な方形周溝墓群が、本遺跡を中心とした範囲に形成されていたことがわかりました。

方形周溝墓のなかには、周溝を含む全長が 30mを超える、神奈川県内における最大級のものが存在します。

本遺跡のような、低地上で発見された古墳時代前期の大規模な方形周溝墓群は、神奈川県内だけではなく、南関東地域全体で見ても類例が少なく、また埋葬主体部が発見され、その中からガラス小玉6個が出土した点を含めて注目されます。





古墳時代前期の方形周溝墓群



古墳時代(6号墓出土)の壺形土器